事　業　報　告

１．事業の現況に関する事項

（１）事業の経過及びその成果

当事業年度における航空業界では、訪日外国人旅客数は過去最高となり、国内線旅客数においても着実な回復が続きました。富山空港においては、国内線旅客については緩やかに回復しているものの、国際線においては日中両国間の関係悪化に伴う上海便、大連便運休により大幅な旅客減となりました。

このような情勢のもと、当社は期初から時節に合わせたイベント等を積極的に展開し、非航空系による賑わい創出に努めるとともに、免税売店の販売体制の強化による売上増加に取り組みました。

富山空港におけるこの１年間の乗降客数は、国内線・国際線を合わせて 379,306 人で前年度比 16,376 人(4.1%)の減少となりました。

このうち国内線は定期便とチャーター便を合わせて 344,791 人で前年度比 14,811 人(4.5%)の増加となりました。

国際線は、定期便は台北便が全期間、大連便が 8 月から、上海便が 1 月から運休したこと、チャーター便が減少したことにより、定期便とチャーター便を合わせて乗客数は 34,515 人となり前年度比 31,187 人（47.5%）の減少となりました。

こうした状況の下、営業収益については、715 百万円と前期比 157 百万円の減収となりました。不動産管理事業収入が前期比 45 百万円の減収、売店売上高が免税売店売上の減少に伴い、前期比 112 百万円の減収となったことが主な要因であります。

営業費用については、737 百万円と前期比 64 百万円の減少となりました。その内訳は、商品売上原価が売店売上減に伴い 79 百万円減少したこと、人件費が社員の給与費増等に伴い前期比 33 百万円増加したこと、物件費が、水道光熱費や清掃・設備保守等委託料の増となったものの、修繕費、消耗品費等の節減に努めたことにより前期比 25 百万円減少したことが主な要因であります。

この結果、営業利益は 21 百万円の赤字で前期比 93 百万円の減益となりました。これに営業外損益・特別損益を加減し、税引前当期純利益は 15 百万円の赤字で前期比 99 百万円の減益となりました。これより法人税、住民税及び事業税・法人税等調整額を加減し、最終の当期純損失は 10 百万円の赤字で前期比 134 百万円の減益となりました。

（２）重要な設備投資等の状況及び資金調達の状況

当期において、特筆すべき設備投資、重要な設備の除却又は売却はありません。

また、当期中に実施した資本調達はありません。